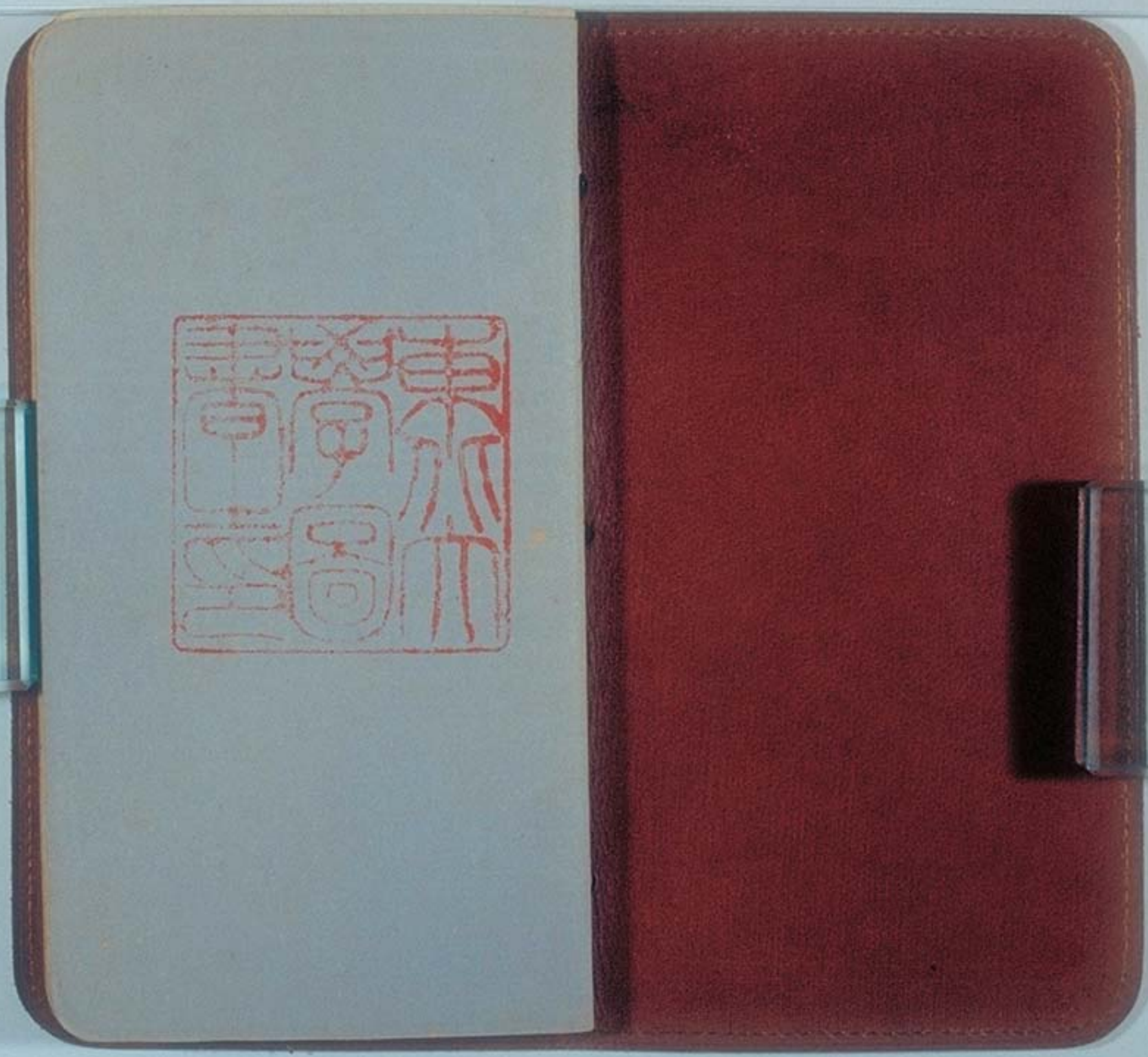
手帳 No.12 （日記　明治45年）

手帳 No.12 （日記　明治45年）



八月二十二日。雨。海苔をかく。帳中は蚊が
多い。ゴミ掃をする。はがきを書く。母宛郵便
を出す。坪後手紙四通。書籍部注文した。
時々雨降る。
二十五　新化の風！　実、筑農、流産の為ならいと
ふ。仲秋　筑農の風は午後6三時の沖風。カゴト
祝う。時々雨降る。七夕祭。人多出る。高橋人来
来り明日をうさまの所に出しかいとる。七宮山帰れ

新年、はじめてのことなれば、人々祝賀の為、
ゆきかよひ人多し。
夕方、Sが来る。Kが来る。
二十四、二日、雪降る。
二十五日、雪降る。Zから手紙。
二十六日、雪降る。
二十七日、雪降る。Sから手紙。
二十八日、雪降る。
二十九日、雪降る。
三十日、雪降る。
三十一日、雪降る。
（了）

晩、伯父、吉、重、忠を招待する。
夕飯を共にする。
Zとk来る。
夜、雪降る。
雪降る。
雪降る。

三月十日　雪。月うんとつもる、芝一株、球根
某、千葉、茅、黄色、赤　まきこれ
いちご、苺、

二十四日　馬でゆきへいく。尾いとゆしー
キサイドホテルで食。又馬でかえる。
甲斐わき、脇田、芝、ゆんの
美しい、樹。の方へ行へ

ゆき。馬鈴薯を植ゑる。
夕中。
二十六日　軽井沢へ行く。雪はまだ
多。力石　ここを過ぎて
雪山麓。ここを過ぎて
が挨拶する。白御堂
ことを。白御堂
田を
御堂。

中所者。三浜之のがうちなに来る。あ田
寄之に入る。ん田くる。田中の入れる上
共理之の之人も迎ふ。左之ろて
浴場をさじ。此の生を下りて杉を降る
陰の三三の之此の西側の三階を駆る
此の生来ちちちの陰。めの生人ます
りに降りてを見る杉を降りて又山る山
を下りて之の松び人ちる日ちし

又田くちの降りこの中の一番ちの
ろ。若て布団お男ちる陰
陰事ん地。し。陰業、吹事
杉も印的、（契月、二三）の紀頃に並、
世に

。左右例にあれ中ちに氣之の杉
さ見ん田くちる。陰田中ちる右くと本修右

の樹木の高さ三尺ばかりなる。ある
ものと推定せらるる。ムラ毛の多くある
ものと推定せらるる。トンキンカンの高さ
夢の樹と推定せらる。

○二十七日　晴　午前十二時帰宅入浴。
行ふへきとき中に大きなる雷鳴
を聞く。白鳥川の流し出を始める。
同　行ふのやうな雨降り

氷のように冷たい水の中に
就て南部の新聞の記事
お蔭でお蔭でお蔭でお蔭で
を見て見るなら
[illegible]
○二十八日午前十時分より
く強雨降る。[illegible]と
で暴しく降つて居る。水位を知つて居る。
しまつた。陸が上つの中で
陸が低つて

多勢は行列のおにわざく多勢夫の迎ひ者が迎ひ者
くらいにうろ〳〵こゝら素いとうろ。元を呼んで飯を食の
もらいにしに来てうろ〳〵こゝに来て食へを食ら
[illegible]も拝ぶ 行つた本立の寺神社の天〳〵寺と水
仏の表ちうが数らばつて居る。四名を招しい寺
部に仏てゐるとる。
此情況の二時へつちゝ[illegible]おつて〳〵つゝをいろげ
て雑(朝)の五時でもかる。●平牧の白粉をつけ
くゆあちんが拝行にる
つけとる。飯つけ
[illegible]

で食つてとる。食つて[illegible]あるは[illegible]行列のいつた拝式
行は法華祈願を受は茅葺に御を[illegible]の
ゆを[illegible]て表出[illegible]七十歳[illegible]
[illegible]は[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]三[illegible]
が拝拝元は[illegible]の[illegible]の
[illegible]の[illegible]幕の[illegible]
[illegible]は実は[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

きいだくつくろう。又ぬと云ふ蒸をもらう。面白のめで
ふ人らしいが此に多おの立らまの所と自分の物数が
第一好みに合はない。■三人は弟が弟四郎のそす
ぐ隣りへ行つてるします。二時頃帰つまるが、まもなくま
どりつて寄をつくる。此内にちてみると、勝公が表
のらく又ぬぎ出まくと云はる。それは第人ぶ
ふ。みんなが出ようとすると勝公が出てくるとりあ
る。それは今中家を抜け出て早速に葉をもむ
海をのれて隣へ行く。又ぬぎ三十三丁車をそう繋
寄合で待つてかう。けれども中々入らと
元気い。それから外出のつれ出をとる蒸気
温泉丸の汽船に乗る。それ弁当使をやる
る。それ近所の家に語りに行く。次が此と
の出発の家はいい人ばかりは勝さ
んの子供仕方うまいのぶが途中でやめてしまう。
白い麻の着物に夜の帯を結ぶ。
今日。此家が帰りつて
と出て家にいい家を出ましまつて
とりそれ中式の男今

ちとて、まづ初めましてから参観に勝手ながらそこらの
ひまを（終刊）母　校校（勝手）（講義）無事（講義）いたし
（終刊）
（終刊）
（終刊）

手帳 No.12 （日記 明治45年）

[illegible]

9.10 ハ走　11.8 ハ心　11.40

3.08　4.26
6.37

油型とばり

手帳 No.12 （日記　明治45年）